
*** ほわいとH I L L ***

鷹梨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ほわいとHIELL

【Nコード】

N0622D

【作者名】

鷹梨

【あらすじ】

男の僕は、男の君に幼い頃から恋心をいだいていた。側にいれればよかったのに・・・君に彼女ができてから僕の心はよくばりになっっていく。

側にいるだけでよっかのに（前書き）

この作品を読むにあたっては、偏見などもあるとおもいますが、いろいろなことを感じていただければ幸いです。

側にいるだけでよかったのに

言葉にしたことはなかった・・・

言葉にできなかった・・・

言葉にしくなくても伝わったんだ・・・

この気持ちは本物だった・・・

幼少時代

僕は長野県の田舎にすんでいた。冬になるとあたりまえのように雪がふった。よく一緒に雪

の上に寝転んだりしていた。

「冷たいね」

「うん。」

よくあるたわいもない会話をすると、僕らはいつものように互いの手を握り合ったんだ。

この頃にはもう僕は君が好きだった。でもこの気持ちは君にも誰にも知られてはいけないのだ。

ただの友達でもいい。側にいたい。僕はこの気持ちを隠して君の側にいることをえらんだんだ。

高校2年の夏。僕の恐れていたことが起こってしまった。君は言う。

「俺さ、

昨日から彼女できたんだ。」

僕はひどく混乱した。しかし、その混乱を表に出すこともできずに冷静に

「よかったな。お前みたいに、色白で女々しい奴にも彼女ができて」

それからというもの、いつも君とあるいていた道を僕は一人で歩き、君は彼女を送るために遠

回りをしていた。寂しくはない……。もともと言うつもりはなかったのだから。

「明日デートすんだけどさ、どこがいいと思う？」

相変わらず僕の気持ちをしらなに君はぼく問いかける。

「おまえなあ、デートの場所ぐらい自分でかんがえろ」

「まあまあ、お前のアドバイスすっげ役にたってるからさ。」

「はいはい」

ため息をつきながらも、やはりゆづことを聞いてしまつあたり、惚れた弱みだと嫌気がさす。で

も君のためならなんでもしてしまうのだ。好きなものだから・・・

4ヶ月後冬。僕に転機がおとずれた。雪の降る学校からの帰り道きみがこういったからだ・・・

小さい頃

よく一緒に寝転んでいた雪の丘に僕は呼び出された

「彼女にふられた・・・」

涙まじりの君の顔・・・可愛いとおもった・・・僕はもう自分を抑えることができなかった。

気がついたら僕は君にキスをしていた。暖かくて、やわらかい君の唇。しばらく夢中になって

キスをした。

「んっ・・・」

君はとまどつて小さく息をのみこんだ・・・そして抵抗してきた・・・
でも僕はかまわずキスを

続けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0622d/>

* ほわいとHILL *

2010年11月14日09時44分発行